

「日本経済新聞」「日経電子版」および「日経産業新聞」に広告を掲載しました



2022年8月1日

当社は、ニチレキグループの社会貢献に向けた姿勢や技術力を幅広いステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的として、本日発行の「日本経済新聞 朝刊」「日経産業新聞 朝刊」に広告を掲載いたしました。また、PC版「日経電子版」トップページ（7時～11時）にも広告を出稿いたしました。

なお、本広告は7月26日（火）に続く2週連続のシリーズ広告となります。

傷んだ路面を再利用して、道路強靱化。テクノロジーの「二重奏」で実現します。

道路を根本的になおす時には、まず傷んだ舗装を取り去った後、新たな材料を現場に投入して埋め戻す工程が必要でした。しかし、ニチレキの「スタビセメントRC工法」なら傷んだ舗装をそのまま再利用。廃棄物を大幅に削減することができます。さらに、この工法で構築した舗装の上に長寿命な舗装材「スーパーシナヤカファルト」を舗装すると、他と比べて2倍以上も長持ちする道がつくれるのです。丈夫な道は修繕回数も減るので、維持工事で発生するCO₂を約40%も削減できます。また、「スタビセメントRC工法」は、雑草にも強いので防草・減草といった効果も期待できます。廃棄するしかなかった傷んだ舗装をリサイクルする。さらに、これまでにない強靱さも加えていく。それが、新たな価値を「プラス」する。私たちの「サステナビリティー」。つまり、ニチレキの「サステナビリティー」なのです。

足すサステナビリティー

ニチレキは、新たな価値を「プラス」するサステナビリティーへ。

※2022年8月1日 日本経済新聞 朝刊 掲載広告

製造温度を50℃下げても、スーパースーパーなしなやかさ。クールで、タフなアスファルト誕生。

アスファルト舗装材は高温でつくる必要があります。しかし、環境への影響を考えれば、できるだけ低温でつくりたい。そこでニチレキは「シナヤカファルト」のしなやかさはそのままに、舗装材を低温でつくる革新に挑戦。その結果、従来の180℃より50℃も低い130℃で舗装材を製造することに成功し、燃料消費で発生するCO₂排出量を約22%削減を実現しました。地球にやさしく進化した新製品「スーパーシナヤカファルト」は、他のアスファルト舗装材より2倍以上長持ちさせ、維持工事の回数を約1/2に減らすことも可能。お書き置きをはじめとするステークホルダーの皆さまのCO₂排出量削減ニーズに応え、持続可能な道づくりにも貢献します。より長持ちする舗装材を、CO₂排出を抑えながらつくる。維持の回数も減らして、工事の回数に発生するCO₂も削減する。それが、新たな価値を「プラス」する。私たちの「サステナビリティー」。つまり、ニチレキの「サステナビリティー」なのです。

足すサステナビリティー

ニチレキは、新たな価値を「プラス」するサステナビリティーへ。

※2022年7月26日 日本経済新聞 朝刊 掲載広告